

本の ひろば

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年10月1日発行 (毎月一回発行) 第705号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

絵本との出会い 鬼形恵子

本・批評と紹介

中道基夫 著

天国での再会 石居基夫

吉岡恵生 著

立ち上がれ! 越川弘英

今井敬隆 著

あなたはヨブと出会ったか 賈晶淳

勝又悦子・勝又直也 著

生きるユダヤ教 池田 裕

W・J・ファン・アッセルト 編/青木義紀 訳

改革派正統主義の神学 芳賀 力

クリスティン・ジャック 編/永井みぎわ 訳

世界がぶつかる音がする 倉沢正則

大島 力 著

聖書の中の祈り 願念 望

森島 豊 著

人権思想とキリスト教 近藤勝彦

喜田川 信 著

約束の言葉への信仰 坂本 誠

大崎節郎 著

大崎節郎著作集 第五巻 稲山聖修

日本キリスト改革派教会憲法委員会第一分科会 著

日本キリスト改革派教会宣言集 (附解題)

松田真二

安酸敏眞 著

欧米留学の原風景 村松 晋

キリスト教本屋大賞2016

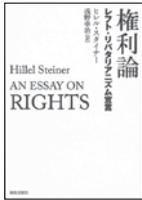
本屋さんが選んだお勧め本

既刊案内

書店案内



10 OCTOBER
2016

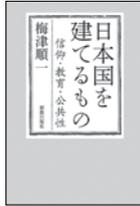


権利論

ヒレル・スタイナー著 / 浅野幸治訳
「分析的政治哲学の一点」(森村進一橋大教授)

大反響

個人の所有権と財の配分のあり方を精緻な理論構成によって徹底的に考え抜き、自由と平等のダイナミックな均衡を提示する。ロールズ『正義論』以来の議論に一石を投じたレフト・リバタリアニズム(左派完全自由主義)の基本文献、待望の邦訳。著者11月来日予定。◆A5判・本体5000円



日本国を建てるもの

梅津順一著 (うめつ氏は青山学院院长)
信仰なき市民社会への挑戦
信仰・教育・公共性

ピューリタニズム研究の第一人者が、近代日本のキリスト教、日米キリスト教大学の歴史を振り返り、日本の将来の精神的基軸を構想する力作。本多庸一、徳富蘇峰、内村鑑三、福澤諭吉などの思想家たちはキリスト教思想に何を、どのような日本を夢見たのか。今学ぶべき日本のキリスト教大学のルーツとは。◆四六判・本体2800円



ソクラテスの死とキリストの死

日本における講演と説教
ベルトルト・クラッパート著 / 武田武長編

9月16日

西欧精神を深く規定した二人の刑死者をめぐる表題の論考をはじめ、ユダヤ教・キリスト教・イスラームにおけるアブラハム像の異同と対話の可能性、カルヴァンと旧約聖書の関係など、神学の醍醐味を伝える興味尽きない論考。説教8編を収録。著者は9月に3度目の来日。◆四六判・本体3200円

基督教の起源

山谷省吾著 / 荒井 献 解説

あの名著がオンデマンドブックとしてよみがえる!

発売中

キリスト教のユダヤ教的背景から説き起こし、古カトリック主義の成立までを詳説した大著。戦後、邦人の手によってまとめられた初期キリスト教史概論の記念碑的古典。堅実で厳密な学問的態度と信仰的立場とがみごとに融合した名著。上下2巻を合本化しオンデマンドブックとして復刊。◆A5判・並製・740頁・本体6800円

同じ著者の新約聖書解題も準備中(解説は中野実氏)



出会い・本・人 絵本との出会い——鬼形恵子

私は学校の授業や礼拝の中で、時々絵本を使用しています。絵本は小さな子どもたちだけのものではなく、大人にとっても楽しく、興味深いものであることを知ったのは大学生の時です。私は同志社大学神学部で学び、日本基督教団錦林教会に通っていました。当時の牧師であった糸井国雄牧師は教会学校だけでなく、大人の礼拝でも時々絵本を用いて説教をされていました。京都は学生が多いところですが、その頃の錦林教会にも学生や神学生が大勢通っていました。下宿生も多かったので日曜に限らずよく教会に集まり、とくに牧師館で共にする食事を楽しみにしていました。そんな交流の中でも絵本はよく話題になりました。

この頃の絵本との出会いは、私にとって一生の宝物となりました。とくに印象深いのは、レオ・レオニの『ペツェッティノ』『じぶんだけのいろ』、シルヴァスタインの『おおきな木』『ぼくを探しに』などで、それまで自分が持っていた絵本のイメージとは違う新鮮な作品でした。これらの作品に聖書の言葉は出てきませんが、根底には深い聖書理解があるように感じられました。絵本の言葉はシンプルですが、美しい色彩や個性的な絵と共につくられる独自の世界があり、読む人の想像を掻き立てる自由があります。どんな風にも読むことができるところも、絵本の魅力です。学生の頃は、ゆつくりと書店で本を探し、気に入った絵本に出会

うことが楽しみでした。

教会の友人の間では、絵本にメッセージを一言添えて贈ることがありました。本を贈り合える関係は嬉しいものでした。卒業後、私が現在の横浜英和学院に赴任することが決まった時、教会の友人たちが絵本に寄せ書きをして贈ってくれました。すでに牧師になつていた女性の先輩からは「わたしたちはパイオニアだよ」と書いてありました。キリスト教の世界ではまだ女性の活躍は少ない時代でしたので、背中を押してくれた言葉でした。この絵本は、今でも職場の私の書棚に大切に置いてあります。

現在同僚として働いている教師の中には卒業生もいます。先日学校礼拝の中で、生徒たちに絵本を紹介した先生がいました。その絵本は、かつてその先生が教育実習生だった時に私がメッセージを添えて贈ったものでした。ずっと大切にしてくださいということが本当に嬉しく、感謝しました。

最近はやつくりと書店で本を捜すことも、誰かにメッセージを添えて本を贈ることも少なくなりました。良い本に出会い、本を通して繋がる関係も大切にしていきたいと願っています。

(おにがた・けいこ 横浜英和学院 学院宗教主任・日本基督教団鎌倉恩寵協会協力牧師)

死者儀礼に見る日本における福音進化のプロセス
中道基夫著

天国での再会 日本におけるキリスト教葬儀式文の インカルチュレーション



石居基夫

かつて遠藤周作はその代表的作品『沈黙』のなかで、フェレイラという転び司祭の口を通して、日本の宣教がどんなに成果を見せたように思えたときでさえ、じつは日本人に本当の信仰は伝えられなかったのだと述べさせた。日本の土壌は、「沼地」であって、キリスト教の種は、芽を出し栄えたように見えていたとしても、その根は腐っていく。キリスト教は日本の中ではその本来の信仰は変質してしまうのだというのだ。もちろん、作品は、そのように断じる西欧的なキリスト教、その教義と実践が絶対唯一の姿であって、それ以外の信仰のかたちは認められないものなのかと問うているのだろう。

キリスト教が非キリスト教的世界において宣教される時、どのように異文化世界と出逢い、福音を受肉化させるのか。

中道基夫氏の研究は、「宣教学」的な視点から「葬儀礼拝」をテーマとして日本におけるキリスト教の文化内開花（インカルチュレーション）の問題を深く問う研究である。

古くはグスタフ・ヴァルネックのようにキリスト教と他宗教・異文化を排他的二元論によってとらえ、異教徒のキリスト

教への改宗が絶対的な価値と主張する考えもあった。ある意味では、西欧化とキリスト教化が同一視された場合もあっただろう。未発達な文明が先進的西欧の文明によって凌駕されていくように、非キリスト教的なものはキリスト教的なものへと移行、変化させられることが主張されたのだ。その後、異文化社会でのキリスト教の受容の在り方は、土着化、適応化、文脈化などの諸概念で語られてきたが、二十世紀の後半、特にカトリックの第二バチカン公会議以降は、むしろ宣教の多様な実践と可能性がインカルチュレーションという新しい概念によってとらえ直されてきている。

本書に展開されるのは、単なる理論研究ではなく、それを含み込みながら、インカルチュレーションの実際を日本におけるキリスト教葬儀という具体的な研究によって、その内実においてとらえる試みといつてよいだろう。

明治にはじまるキリスト教の日本における新しい宣教は、キリストの福音とともに西欧型の価値観や生活様式を導入したが、キリスト教は全く日本のものを排除したのではなく、むしろ

それと対話し、日本におけるキリスト教の独特な姿を形成してきているといえるだろう。とりわけ「葬儀」という特別な状況は、その当事者を含む共同体がもともと持っている世界観や宗教的・文化的枠組みとそこでの慣習に基づいて、一人ひとりの深い霊的ニーズが根強く表出されてくるところだ。日本では神道、そして江戸以降は圧倒的に仏教的方式がこの日本人の霊的ニーズに関わってきたわけだが、日本のキリスト教葬儀はこの日本人特有の霊的ニーズとの対話によって西欧のキリスト教とは異なる姿をつくってきたのではないか。

中道氏は、明治以降の葬儀式文の歴史、その順序、祈祷文、さらに式文にかかれていない葬儀の実際を当時の「記事」から考察、また葬儀の際に歌われる賛美歌の選曲や翻訳における特徴を検証しつつ、日本独自の「葬儀」の姿を丁寧に描き出す。それは、キリスト教が日本人の伝統的なやり方を導入したり、それらをキリスト教的に再解釈していくことに留まらず、

日本におけるキリストの福音の深化のプロセスととらえていく視点ははつきりと示す研究なのだ。日本の死者儀礼は単なる宣教の障壁ではなく、むしろそこに示される日本人の霊性との対話によってこそ、日本という地にあつてキリストの福音へと人々を招くことが可能となるのだし、西欧とは異なる福音の深化を見出せるということではないか。

本書は、これまでのキリスト教の西欧中心主義を超えて、普遍的な神の祝福への具体的な招きの姿が、それぞれ異なる文化的土壌のなかに生まれていくことを積極的に評価する、宣教学研究なのである。

(いしい・もとお)リール学院大学教授・日本ルーテル神学校長
(A5判・二二六頁・本体三三〇〇円＋税・日本キリスト教出版局)

教会に根つかない現代人に語る
10の説教と神学者の応答



教会を通り過ぎていく人への福音 今日の教会と説教をめぐる対話

W・H・ウィリモン／S・ハワーウス 東方敬信／平野克己 訳

大学チャペルに集う多くの会衆―「通り過ぎていく人（ストレンジャー）」の心に届けられた10編の説教とその率直な批評を収録。四六判並製・242頁・2376円

現代社会に根ざした広い視野で
神学を捉え直す最良のテキスト

現代キリスト教神学

理解を求め信仰
D.L.ミグリオリ 下田尾治郎 訳
現代英米圏で愛用され続ける最良の組織神学概論テキスト。古典的神学から現代の問題と切り結ぶ神学まで視野に入れ概説する。A5判 上製・346頁・4,536円

礼拝用オルガン奏楽CDシリーズ
全6巻完結!

CD版 讃美歌21による 礼拝用オルガン曲集

第4巻 礼拝の時と教会暦1
礼拝・アドヴェント・クリスマス
飯 靖子／志村拓生 演奏
使用ストップと演奏のポイントが分かる音楽CDシリーズの最終巻。クリスマスの喜びを歌うオルガン奏楽集。44曲収録・1,944円

日本キリスト教出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

福音の本質を外さない骨太い説教集
吉岡恵生著

立ち上がれ！ 神の恵みに生きるために

立ち上がれ！ 神の恵みに
生きるために
吉岡恵生 Yoshiko Yomoku



越川弘英

吉岡牧師は三十一歳になったばかりで、牧会経験も七年という。文字どおり「若手牧師」と言っていいたろう。初めての説教集である。本書には二〇〇九年から二〇一五年まで、神学生だった時期に京都の同志社教会で行った説教、牧師として東京の霊南坂教会で、また現在働いておられる北米・カリフォルニアのシカモア組合教会で、それぞれ行った説教、あわせて三十一編が収録されている。

本書を読んでまず感じたのは「オーソドックスな説教」という印象だった。説教題には「加齢なる神殿」「キャプテン・キリスト」「出発信仰」など一見奇をてらうようなものがあるが、内容は実にオーソドックスである。オーソドックスという言葉は通常、「正統的」という意味で使われるが、原語のギリシア語には「正しく神を賛美する」という意味が含まれている。この本の説教はいずれもキリスト教・聖書について「正しく解き明かす」だけでなく、「神をほめたたえる・祈る・賛美する」という点においてもきちんとした説教者の姿勢が伝わってくる。近年、私は自分の説教作りの指標として、「キリスト教的・

際に説教を語っておられる姿を拝見したことがない。しかし日常的な会話や振る舞いなどから推測すれば、こうしたデリバリーにおいても相当な配慮をなさっておられることは容易に想像される。先述した説教題も教会内外の人に対して説教への関心を喚起するためのコミュニケーション方法のひとつであり、最近、私はこうした説教題の付け方がいかに重要かということをも多くの若手牧師や神学生から教えられている。

第一の点でも、福音の本質を外さない筋の通った骨太い説教であると思う。どのような場合にも聖書から遠く離れることなく、核心となる御言葉とつねに結びつきながら、説得力を湛えた結論に至る。いずれの説教も聖書から導き出された言葉を語り、また聞き手を聖書へと導いていく言葉を語っている。

第三について言えば、本書のところどころで若手牧師なればこそその「おもしろさ」が感じられた（とくにサッカー関係の話題）。これからの吉岡氏の人生の歩みが、さらに豊かな幅広さを

聖書的事であること」「分かること」「おもしろいこと」という三つのポイントを考慮するようにしている。第一の点については語るまでもない。第二はコミュニケーションに関わることで、言葉の選択、文体、説教全体の構成、そして実際に説教壇で語る際の声や姿勢などデリバリーに関わる指標である。どんなに良い内容の説教であつても聞き手に届かなければどうしようもないわけで、説教における「伝える」ための工夫は不断に求められる。第三は説教者の人格や経験、そして情熱から滲み出てくるような説教の「味わい」とでも言うべきもので、その人しか語れない説教・その人らしい説教から立ち現れてくるオリジナリティのことである。

あくまでもこれは私個人の指標に過ぎないが、この三点から見たときに吉岡氏の説教がそれぞれ一定の高いレベルにおいてバランス良くまとめられていることを感じる。とくに第二の点において、平易な言葉の使用、無理のない筋の運び方（構成）、例話や経験談の分かりやすさや抑制的な用い方など、ベテランの説教者のような感じを受けた。残念ながら、私は吉岡氏が実と深みを加えた説教へと結実していくことを期待したい。若手には若手の時代のおもしろさがあり、古手（？）には古手のおもしろさがあるのだ。

良い説教は福音の真理に新たなかたちで出会う喜びを私たちキリスト者に与えてくれる。同時に良い説教者との出会いは私たち説教者に大きな刺激を与え、福音を語るという説教者の使命感と情熱を掻き立てる。若手がこれだけ頑張っているのだから、古手の私をもっと頑張らなければと、あらためて意識させられた説教集である。たしかに年齢に関係なく「神は説教者を立てる」（深田未来生）のだ。

（それにしてもこのカバー写真はちよつとかつこ良すぎるんじゃないか!）

（こしかわ・ひろひで 同志社大学キリスト教文化センター教員）
（四六判・二六四頁・本体一八〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
▶教会形成への提言



現代に生きる
信仰告白
——改革派教会の伝統と神学

佐藤優 ●著
キリスト教徒であつて日本人であるとはどういうことか
■四六判・168頁・1,700円



若き伝道者の力ある言葉！
立ち上がれ！
神の恵みに
生きるために
吉岡恵生 ●著
米岡キリスト合同教会
シカモア組合教会日本語教師
若き伝道者により語られた力ある
メッセージの数々。生きる励ましとなる
説教集。
■四六判・264頁・1,800円

キリスト新聞社 since 1946
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (無料は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

ヨブ記の迷宮への案内書
今井敬隆著

あなたはヨブと出会ったか 迷い、躓き、行き詰まりながら読む

あなたはヨブと出会ったか
迷い、躓き、行き詰まりながら読む
今井敬隆



賈 晶淳

本書は今井敬隆牧師が日本基督教団東美教会（東京）で二〇〇四年一月から二〇〇五年三月まで主日礼拝で行なったヨブ記の講解説教を集めたものである。著者は一九八七年から二三年間この教会を牧会し、二〇一〇年に辞任された。その後二〇一三年まで小平学園教会の代務者を務められたが、現在は教師を隠退し、百人町教会に出席しておられる。またこの間、一九九九年から一〇年間日本女子大学文学部非常勤講師も務められた。他に『あなたのガリラヤへ——聖書を読む』（新教出版社）という著書がある。

『あなたはヨブと出会ったか』というタイトルは、聖書の最も悩み多い人物であるヨブとの出会いに私たちを誘っている。本の扉を開くとすぐ目次に出会う。つまりこの本には序文がない。本書をまとめた著者の執筆意図や環境を伺うことはできないが、それはヨブになるべく早く会わせたい著者の親切な意図かもしれない。その代わり最初の説教の1頁目に序文のような内容が書かれている。「ヨブ記はたいへん難解で、おいそれとわたしの手に負えるような代物ではありません。しばしば誤解

れではヨブに聞いてみよう。確かにヨブは私たちに悩む方法を教えてくれる。

著者は、ヨブ記で相当な部分を占めている三人の友人との会話のところ、彼らの考え方が「因果応報論」に立っていると繰り返し述べている。ヨブ記の著者は「ヨブ物語を通して因果応報論に代わる新しい信仰の基準を模索しているのではないのでしょうか」（一九一頁）と二応ヨブの信仰へと私たちを導いてくれるかに思わせながら、すかさず「明確には分かりませんが」と付け加えることを忘れない。こうして私たちをさらに迷いと躓き、行き詰まりの迷宮へ案内してくれる。

多くの神学者や説教者がヨブ記をめくり、納得の行く答えを得たかのように書物を出してきた。著者もそのような先人たちの仕事に目を通したにちがいない。にもかかわらず著者は悩み続けている。この点が本書のユニークさではないか。説教は、説教者が存在をかけて発する言葉であり、信仰告白であり、指南書である。だから他人が論評するのは非常に難しい。「今日

や勝手読みをするでしょう。迷い、躓き、行き詰まり、迷路に引きずり込まれてしまうなど、……。副題の「迷い、躓き、行き詰まりながら読む」はここから取られている。「腑に落ちない点や、自分ならこう読む」という異論など、ございまして、率直に聞かせてください」と教会員、さらには読者への誘いの言葉も書かれている。確かにこの本には「……かもしれない」という言葉が多い。これこそ著者が読者を誘うお誘い文句のように読み取れる。この本を読まれる方はぜひ説教者との対話を楽しんでほしい。

説教はヨブ記の四二章と同じく全部で四二編載っている。聖書テキストは口語訳が引かれ、各説教の冒頭に掲載されている。従って、読者は説教者よりヨブに先に出会い、対話を始めることができる。

著者がなぜヨブ記を選んだかが本を読むと伝わってくる。現代社会の不条理や人々が逢着している難問が提示され、説教者はその答えを聖書から見つけられないで悩み続ける。この悩みこそが今日における説教者の置かれている環境ではないか。そ

の説教はとても良かったですよ！という教会員のように、ただ「良い本です」と褒めるのも良くない。百人町教会の家庭集会で本書を取り上げて読書会を行ったところ、非常に分かりやすかったと言う人もいれば、何が言いたいのかさっぱり分からないと厳しく批判する人もいた。

ヨブ記は、ヨブ自身だけでなく神もサタンも友人たちも悩ませる書だ。当然読者も悩まされる。牧師も迷った時、躓いた時、行き詰った時にヨブ記を取り上げたい。引退後の著者にこの本を出版する勇気を与えたのも、そうした悩みであったかもしれない。

どうやら著者の口調と似てきたところで終わりとするが、読者の皆さんも著者と共にヨブ記で悩んでほしい。一人の牧師が説教をするためにどれほど悩んでいるかをぜひ分かちあっていたきたい。

（カ・ジョンソン＝日本基督教団百人町教会牧師）
（四六判・三八八頁・本体一六〇〇円＋税・新教出版社）



大崎節郎著作集

第六巻 実践神学関係 (全7巻)

大崎節郎
Setsuro Osaki



教義学者が「教会」「礼拝」「説教」「聖餐」を深く掘り下げる。

大学・高校などで語られた折々のことばを併録。若い魂に向けて語られた力強い、励ましに満ちたことばには、伝道者としての一面が見られる。

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価【本体7,000+税】円
ISBN978-4-86325-087-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

ユダヤ人の創造力とその魅力を知る入門書！
勝又悦子・勝又直也著

生きるユダヤ教 カタチにならないものの強さ

著者によれば、二千年前に神殿を失くして以来、ユダヤ教に残されてきたのは、聖書とそこに記された言葉しかなかった。ラビ・ユダヤ教は、口伝律法というシステムを全面に押し出してきて以来、こうした解釈の伝統をすべて口伝できるように記憶に叩き込み、世代から世代へと伝えることにした。実際「記憶されたものは、なんのカタチにもならない。しかし、カタチにならないからこそ、他者はそれを破壊することができなかったのではないか。政治的には支配を受けながらも、カタチにはならないからこそ、壊されることはなかったのではないか。そして、そのカタチにならないものを生み出すのが強靱な思考力であり、想像力であり、創造力である」(一〇頁)。

著者は、そのカタチにならないものの力強さをユダヤ教文献の中に感じてきた。そこでは「枝葉末節の字句に拘泥した議論が展開する。しかし、このような議論の集積が、カタチになるものを持たなかったユダヤ教が生き延びるエネルギーになった」のだ。そして、「こうした文献を読み込んでいくと、本質的なこと、役に立つこと、中心的なことと、そうではないこ



池田 裕

と——非本質的なこと、無用なこと、周縁的なこと——などという線引きが曖昧になってくる。何が重要で何が重要でないかなど我々には計り知れないものがあるのではないか。何が無駄で何が無駄でないかなど決められることはない。いや、無駄なものなど実はないのではないか(一一頁)。著者は問う。

そう、本書は、「とにかく、役に立つもの、カタチになるもの、効率的なもの、結果が出るもの」をよしとし、カタチにならないもの、無駄なものは、切り捨ててしまおう、昨今の時流に上手くついて行けない者に勇気を与えてくれる書だ。

第一章「ユダヤ教とは・ユダヤ教の歴史」、第二章「ユダヤ教のエッセンス」、第三章「ユダヤ教の実践生活」、第四章「ユダヤ教の人物」、第五章「ユダヤ教の書物」、第六章「ピユートの世界」から成り、特に、第四章を中心に登場する個性豊かなユダヤ人たちについての記述には惹き付けられる。

ユダヤ教の聖書解釈におけるアブラハムは、決して神の言いなりにはならず、不安や疑問を口にし、神の矛盾を鋭く突く、すこぶるチャレンジングなアブラハムである。中世の代表的ユ

の有名な「ツィヨン・ハロ・ティシユアリ」の訳の冒頭部(三〇九頁以下)を引用して、本書出版の祝いの言葉に代えたい。

♪シオンよ、貴女に心を奪われた者たちの安否を尋ねないのですか。／貴女の群れの中で今なお残った彼らは、貴女の安否を尋ねています。／西からも東からも、北からも南からも、遠くからも近くからも、／貴女の周り全てからの挨拶の言葉を受け取ってください。／そして、貴女への愛に捕らわれている者(「私」)の挨拶の言葉も受け取ってください。／この者は、ヘルモンの露のように涙を流し、その涙が貴女の山々に滴り落ちることを切望しています。／貴女の苦悩について嘆く時、私はジャツカルのようになります。／しかし、貴女の捕らわれ人たちが帰される日を夢見る時、私は貴女の歌を奏でる豎琴になります。……

(四六判・三五二頁・本体二五〇〇円＋税・教文館)

これまでほとんど紹介されることのなかった、「ピユート」(典礼詩)を主とする中世ヘブライ詩の和訳は、本書の大きな貢献の一つである。その中から、シオン(エルサレム)への望郷の念を詠んだイエフダ・ハレヴィ(二〇七五―二四一年)

日本聖書協会

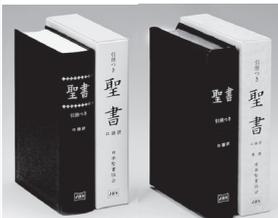
God's Word — Life for the World

7色刷カラー聖書地図入り

大型引照つき 口語訳聖書

再版のご希望が多かった、
『大型引照つき口語訳聖書』。
技術的に不可能とされていた
7色刷カラー聖書地図を
復刻した冊数限定発行です。

2015年に発行60周年を迎えた口語訳聖書は、「毎日出版文化賞」を受賞するなど話題を集め、キリスト教会、ミッションスクールに広く普及しました。文語訳譲りの歯切れのよい文体で、現在も日本中で愛用されています。



引照つき口語訳聖書

☑ クロス装 JC053
定価(本体6,500円＋税)

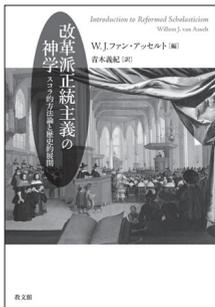
☑ 折革装/三方金 JC059S
定価(本体15,000円＋税)

※それぞれ、ケース入り、A5判。
共に巻末に、カラー地図12ページ
(ほかに地図索引112ページ)入り。

お問合せ ☎03(3567)1987(頒布部)
<http://www.bible.or.jp/>

宗教改革からの「逸脱」か? 「成熟」か?
W・J・ファン・アッセルト編
青木義紀訳

改革派正統主義の神学 スコラ的方法論と歴史的展開



芳賀 力

一七世紀プロテスタント正統主義と言うと、煩瑣なスコラ主義的議論のために「死せるオーソドキシシー」と揶揄されるのが常である。この先人観をくつがえしてくれたのがカール・バルトである。「一九二四年の春休みは、私にとって忘れ難いものである。私はゲッティンゲンの私の書齋にすわっていた。私に与えられた課題は、初めて教義学の講義をするということであった。教義学の講義ができるか、またどのようにやればよいかという問いに、当時の私ほど苦しめられた人は、その後も久しく一人もなかったであろう。私はいわば指導の先生も持たずに、独り広い荒野に立つことになった。ヘッペの書物を見つけたのは、その時であった。私は読みに読み、研究し、考えぬき、ついにその労苦が報われることになった。ともかくも、そこでは、シユライアマッターとリツチュルによって方向づけられた神学文書で私が親しんできた空気の中においてよりは、はるかに意味深く自然に、宗教改革者たちを越えて聖書に至る道が通じている空気の中に私が引き入れられるのを発見した」(H. Heppel, *Die Dogmatik der evangelisch-reformierten Kirche*)

の再版に付されたK・バルトの序文より)。バルトがそこに発見したものは、宗教改革者たちの精神を受け継いだ第二世代の神学者たちによる、聖書に忠実で信仰告白に即した教義学的思索の成果であった。自然神学への退行を警戒するバルトではあったが、決して「改革派神学の辛辣な批判者」(二七五頁)で終わるものではない。バーゼルのバルト・アルヒーフを訪ねた折、ヘッペの教義学読本を見せてもらったが、沢山の書き込みや線が引いてあって、一七世紀の文献と真剣に取り組んだ若きバルトの並々ならぬ情熱の跡をつぶさに見て感動した。私たちが一七世紀の文献に再び触れることになったのも、まさにこのバルトの『教会教義学』における詳細な注からだったのである。この度オランダのW・ファン・アッセルト氏が中心となり、特に改革派スコラ神学を再評価する研究書が出版された。確かにカトリックのルーツでもある古代教父の研究は盛んだが、私たちのルーツとも言うべきプロテスタント教会の「教父ないし弁証家たち」の研究は手つかずの状態である。研究を躊躇させるのは、ラテン語文献が入手しにくいことと並んで、そのスコ

ラ主義的な方法論にある。しかし本書は、ベラルミノーら当時のカトリック神学者らのスコラ主義に立ったプロテスタント批判に対して、きちんと福音的信仰を弁証するためには、こちらにも洗練された精緻な概念と方法に基づいて議論を提示する必要がある、その結果生まれたものが改革派スコラ神学であることを論証している。「方法論における変化は、正確には、「宗教改革の神学」と同じ内容を新しい文脈において形成するために要求されたもの」(二六五頁)であり、それによって「キリスト教の伝統という光において改革派神学の公同性を説明する」(二一五頁) 試みなのである。

たとえば、聖書ノミという教理をめぐって、一七世紀プロテスタント正統主義ほど徹底して厳密に考え抜いた時代は他にない。私自身もH・ヘッペやR・ムラーの研究書に多くを学んで『神学の小径Ⅰ 啓示への問い』を書かせて頂いた。本書末尾には、困難な資料をいかに入手するかについて情報が載せら

れているが、東京神学大学図書館に欧州各地からファクシミリで取り寄せて製本したルター派と改革派合わせて一二三冊があることを一言添えておく。一七世紀正統主義の遺産は神学的思惟を精密化する上で有効であるが、それは舞台裏の作業であり、私自身は目下ナラトロジー(語りの手法)と組み合わせた神学的表現を試みている。訳者の労を多としたい。

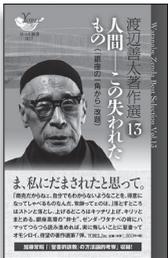
(はが・つとむ 東京神学大学学長
A5判・三四八頁・本体三九〇〇円+税・教文館)

渡辺善太著作選 ⑬

*ヨベル新書37

巻頭エッセイ・加藤常昭先生

人間—この失われたもの



渡辺善太先生は「人間—この失われたもの」を著す。これは、神学、哲学、歴史、文学、政治、経済、社会、文化、教育、医療、環境、エネルギー、宇宙、未来、など、あらゆる分野にわたる、幅広い知識と経験に基づいた、深い洞察と鋭い批判精神を遺憾なく発揮した、傑出した著作である。本書は、現代社会のありさまを鋭く抉り出し、人間の尊厳と自由を擁護する、勇ましいメッセージを込めた、必読の書である。

渡辺善太著作選 全13冊別冊1

新書判・本体1,800円+税

- ① 偽善者を出す処—偽善者は教会の必然的現象
 - ② 現実教会の福音的認識、他
 - ③ 聖書論—聖書正典論 1/3
 - ④ 聖書論—聖書正典論 2/3
 - ⑤ 聖書論—聖書解釈論 1/3 (準備中)
 - ⑥ 聖書論—聖書解釈論 2/3
 - ⑦ 聖書論—聖書解釈論 3/3
 - ⑧ 聖書論—聖書神学論 1/2
 - ⑨ 聖書論—聖書神学論 2/2
 - ⑩ 聖書論—聖書学体系論—試論、他
 - ⑪ 聖書の説教とは?
 - ⑫ わかって、わからないキリスト教
 - ⑬ 人間—この失われたもの
- 別冊 新約聖霊論 (準備中)

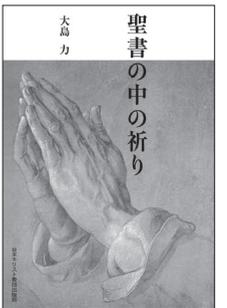
株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

自費出版の専門出版社

旧新約聖書の二の祈りをめぐる味わい深い解説
大島 力著

聖書の中の祈り



願念 望

この本を手にしたとき、しばらく表紙絵に見入ってしまいました。あとで、アルブレヒト・デューラーの「祈る手」(一五〇八年)と知ったのですが、いったい誰の手なのだろう、と素朴に考えながら、不思議な魅力に引きつけられました。長い指の、年を重ねたかに思える手は、国分寺教会員の九十四歳の女性ピアニストの指に似ていると思いつつ読み始めました。

私は「はじめに 聖書の祈り 神と人をつなぐもの」から順に読んでいきました。読み始めて驚いたのは、この部分を読むだけでもこの本を手にする価値があると思つたのです。「旧約聖書の中で『祈り』がどのような段階を経てきたか」が端的に語られ、「新約聖書における祈り」について、主イエスがその地上での生涯において常に祈っておられた、その祈る姿に焦点が当てられています。ぜひ、「はじめに」をまず熟読されることをお勧めします。

さて、「祈る手」の話に戻りますと、教会員の彼女を初めてご自宅に訪問した際、向かい合つて祈るとき、その手の指の長さに気付いて何うと、ピアニストをなさつていたというのです。

上げていることです。私たちはこの場面を具体的に想像してみたいと思います。……とあり、シメオンに限らず、その祈る姿を思い浮かべ、その祈りに心が共鳴して、もつとそのように祈りたい、と思うのです。

デューラーの「祈る手」は、調べてみて、実際には、友人のハンスの「祈る手」だと知りました。貧しい二人は、当初は一人が働いてもう一人が絵の勉強をする約束だったようです。先に勉強したデューラーは、結果ずつと働いて支えてくれたハンスの、しかも自分のために祈つてくれた「祈る手」をどうしても描きたかったのです。

そのことを知ってもなお、いろんな人の手に見えてきます。特に、まだ見たことのない主イエスの「祈る手」に見えてくるのです。大島先生が「はじめに」の最後に引用しておられます。「イエスは、世の終わりまで苦闘しておられる。このあいだ、眠ってはならない」(パスカル)。二二章の最後でも「そのゲツ

現役は退いておられますが、ご自宅でいっしょに讃美歌を歌うと、主旋律を歌う私の声とピアノの音をハモらせ、さらに姉妹の高音とでハーモニーが生まれるのです。それは自分一人では得られない、もつと讃美を歌いたいと思う経験で、この本を読みながら、それに似た感覚を覚えました。それは、自分一人の祈りが豊かにされて「もつと祈りたい」というものです。たとえば、各章の最後の二、三行を書き出すだけでも、その思いを少し、おわかりいただけるかもしれません。

「アブラハムの前にお立ちつくす神。これが、聖書の示す神であり、私たちが祈りに対して相対する存在なのです。」

「私たちは、自分を『知っている者』の微笑みの中で、つまり『大きな魚の腹の中で』神に祈ることができるとヨナ書は語りかけています。」

また「祈る手」は、それぞれの章に登場する祈る人の姿なのだとも思いました。それは、読みながら祈る姿が思い浮かんでくるからです。たとえば、「シメオンの祈り」では、「シメオンが幼子であるイエスを胸に抱いて、心満たされてこの祈りを捧げた後で、もう一冊買って教会図書にしようと思いましたが、セマネの園におけるイエスの最後の祈りと言葉が、弟子たちと同様に弱い私たちの信仰を、今も支えているのです」と結んでおられるように、主イエスの祈りに連なつて祈りたいと願っています。

先日、毎月教会に来られるキリスト教書店の方が「先生、いい本が出ました」と紹介されたのが大島先生のこの本です。思わず「あつ、もう持つてるんです。紹介文たのまれて。いい本ですよね。売れると思いますし、売れてほしいです」と。帰られた後で、もう一冊買って教会図書にしようと思いましたが、

グループでの学びや、修養会、研修会のテキストにも最適です。牧師にとっては大島先生の石神井教会での「聖書の中の祈り」をテーマにした連続説教がもたっていますから、説教の言葉を祈り求める助けになります。ぜひ続編を期待します。

(がんねん・のぞみ)日本基督教団国分寺教会牧師
(四六判・二二八頁・本体一三〇〇円+税)日本キリスト教団出版局

三浦綾子366のことば

森下辰衛 監修 松下光雄 監修協力



三浦綾子の著作から、そのことばに一年を通して触れられるよう、366の珠玉のことばを厳選して収録。美しい草花のイラストも添えられ、愛蔵書・贈り物に最適。
四六判並製・1600頁・16200円

神の愛は、すべての困難を超えてあなたを抱きしめる

アガペーの言葉 山崎英穂

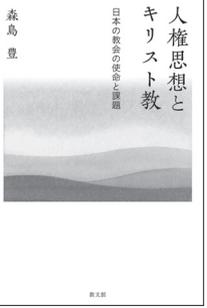


アガペー(愛)が、実際に触れることのできる温かさをもつて感じられる80のメッセージ集。疲れ果てた心に神の愛が語りかける。
A5判並製・192頁・21600円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

「日本型人権」を知るために
森島 豊著

人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題



近藤勝彦

本書は、明確な問題意識に従って著された若々しい著作である。問題意識の一つは、人権思想とその制度がどのような経過を辿って今日に至ったか、特に日本の問題に関心を向けて明らかにすること、この点で著者は「日本で成立している人権は『日本型人権』とも言えるものになっている」(七二頁)と語る。もう一つは、副題「日本の教会の使命と課題」に関わる説教者の姿勢であり、著者自身が伝道者としての責任意識を持っている。福音伝道とその説教は、ただちに人権の確立、著者の言う「人権形成」を指しているわけではない。しかし人権がただ単に自然的な一般性によって成立したのではなく、激しい宗教的エネルギーにその淵源と担い手を見出すゆえに、人権のより深いエートスが今日のキリスト教会と牧師、信徒の活性化によって根拠づけられるのではないか。著者の意図はそこにあると言ってよいであろう。

以上の問題意識から本書の構成は以下のようなものである。一章「教会の改革運動から人権形成へ」は、イエリネツクの『人権宣言論』を手掛かりに、人権思想をピューリタンの「人民協約」

にまで辿る。その際、著者は人権を特に抵抗権と密接な関係にあると見ている。同時にこの文脈に敬虔主義運動の貢献も加えて、ホイットフィールドやジョン・エドワーズ、ウエスレー兄弟などに言及している。

二章「日本におけるキリスト教人権思想の影響」は、日本国憲法の人権制定が決して外国からの押し付けでないとして、在野の日本人法学者鈴木安蔵に注目する。鈴木は植木枝盛の「日本国憲法」の草稿本を発見し、その人権思想と抵抗権思想に興味を懐いたと言う。「この枝盛の私擬憲法案が吉野作造を介した鈴木安蔵を通して現在の日本国憲法に影響を与えるのですが、この法制化の過程の中にキリスト教信仰に基づく人権思想が流れているのです」(三八頁)と著者は言う。

三章「日本における人権思想の受容・形成の課題」は、日本での人権が「歴史形成力を持たない観念的な思想となっている現実」(四三頁)を問題にし、明治の自由民権家たちにも戦後の宮沢俊義の解釈などにも、人権を守り発展させるエートスが欠如していると指摘する。その原因は「抵抗権の根拠の欠如」

(四四頁)にあるとされ、抵抗権において「神への服従が人間である支配者への義務より上位にある」ことが重大視される。そこで本書の主張が次のように語られる。「日本の人権形成において求められることは、『宗教的確信というエネルギー』をもたずところの贖罪信仰に基づく神学的考察と福音伝道、そしてそれと不可分な新しい人間を創造する原点と拠点としての教会形成である」(四七頁)と。本書は「中外日報社」の「第一一回涙骨賞」最優秀賞受賞論文を中核にしているが、それはこの部分であろう。著者の筆致が謙遜な中にも確信を持って、率直に運ばれているのを読者は感じ取り、また新たな研究への激励も送りたいと思うであろう。

その後の成果が四章、五章に現れている。四章「日本の宗教政策におけるキリスト教会の位置」、五章「日本における『信教の自由』をめぐる問題」は、「大日本帝国憲法」の神権天皇制下における「信教の自由」や「政教分離」がいかなる構造的

位置問題をもっているかを扱っている。岩倉使節団による欧米諸国の代表とのやりとりなども取り挙げられている。

六章、七章は、説教、献身、殉教などの視点から日本の福音伝道について語られ、それとして興味深きはあるが、紹介は以上に止めなければならぬ。なお、誤って植村正久のものとした『六合雑誌』の匿名文章「基督教ト皇室」を七四頁以下でも植村の文章として扱っているが、これは著者の責任ではない。本書は現在の日本の教会にとつて極めて時宜に適切である。

自由民主党はすでに「憲法改正草案」を発表して、参議院選挙の後に「憲法改正」を議論に載せると言っているからである。その内容は、本書がまさしく経過分析をした「日本型人権」の歪んだ状態へと逆行させるものである。この機会に是非多くのキリスト者とそのほかの方々にも本書をお読みいただきたい。

(こんどう・かつひ) 東京神学大学名誉教授
(四六判・一六四頁・本体一五〇〇円+税・教文館)



教文館の本

10月刊行予定

A・ベルレユング／C・フレーフェル編 山吉智久訳 旧約新約 聖書神学事典

旧新約聖書を貫く最も基本的な概念や理念を、カトリック、プロテスタントの双方で解説。聖書理解のために不可欠の神学事典。執筆者全15名、全212項目を収録。

● A5判・672頁・本体18,000円

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 図書目録 ● 価格は税別

福音の本質を解きほぐすローマ書入門書！
喜田川 信著

約束の言葉への信仰 ローマ書講解説教



坂本 誠

本書は喜田川氏が六十余年牧会してきた横浜ナザレン教会を引退することを記念して出版されたものである。ローマ書の講解は一九七九年出版の『希望の神』以来、二冊目である。

本書を読破して最初の感想は、喜田川氏の福音に対する一貫した姿勢である。福音の本質を真摯に解きほぐし、時には救済史の視点から、隣人との何気ない会話より得た例話を巧みに入れながらメッセージを語られていることに感動を禁じ得ない。

特に一番重要な説教なのは、この書のタイトルにもなった「神の約束の言葉への信仰（ローマ書四章一〜八節）」である。創世記においてアブラハムについての記述の中にパウロは何を見ただのか。それは、「神の約束の言葉への献身・聴従に他ならない」ということである。これは人間の本性では捉えられない逆説的なことであるが、約束の言葉は単なる信仰の対象ではなく、神の約束の言葉と共にキリストが立っていただくのである、出来事となる。それはまさにイエス・キリストの十字架と復活への信仰である（五三頁）。ここに筆者の最も伝えたかった事柄が

あると信じる。

興味深いのは「正しい者は一人もない（ローマ書二章一七節〜三章二〇節）」の説教の中で、霊による割礼について述べているところである。「霊による割礼とは……イエス・キリストの霊による割礼であり、それは神の初めの世界創造に対する神の新しい創造であり、イエス・キリストの十字架における神の徹底した裁きと徹底した赦しの新創造でした」（三九頁）と語られる。この新創造こそ、現代の「暗い世界において、最も必要とされているものではないでしょうか」（四一頁）と説教は結ばれる。実は、「心の割礼」という説教はジョン・ウエスレーも行っているのであるが、ウエスレー自身も心の割礼から信仰者に生じる新創造を強調しており、喜田川氏の中にウエスレーアンとしての信仰理解が感じられる部分である。

ただし、救いの基本は神から与えられるものであり、人間が作り出すものではない。それは律法の行いがなしえないこと（四五頁）、なぜならば福音は教理ではなく、神の絶大なる行為、神の力（二八頁）であるので、私たちに出来る礼拝の主人公は

神で、私たちはその僕に過ぎない。

喜田川氏は罪を抽象的なものとは考えておらず、罪は力をもって私たちを神から引き離そうとする現実的なものである。罪は道徳的なものも含むが、罪の根本は道徳的次元を超えたものである（七八〜八〇頁）。この罪の力から私たちを解放するものこそ、イエス・キリストの十字架の赦しに他ならない。十字架の救いは、罪の根を断ち切るものであり（八三頁）、解放に他ならない。

評者が最も感銘を受けた説教は、「自分のからだを献げる（ローマ書二章一〜二節）」である。「パウロは、人とは心（魂）また精神（プシケ）と肉体（サルクス）とからなり、これが神から来る霊（ Pneuma ）によってまとめられ……方向づけられる心と肉体との全体、具体的な私というものをソーマ（からだ）と呼んだ」（二〇六〜二〇七頁）という説明に納得させられた。さらに「心を新たにして自分を変えていただく」と

は、「律法と罪の支配からキリストの支配——赦しと自由——へ移されることを意味」する（二〇八頁）という言葉に感動を禁じ得なかった。これは、義と認められた者のこの世の被造物を含めた救いを含む「壮大なヴィジョン」（八七頁）を持つ者たちの使命であり責任なのである。

本書はお二人の孫娘さんの原稿書き起こしから生まれたものである。余談ではあるが、評者も神学生時代、横浜教会の週報を印刷させていただいたが、喜田川氏の味わい深い一字一句を一生懸命に解説した日々のことを懐かしく思い出す。

評者は本書をローマ書入門書としてすべての読者に推薦したい。説教は各章からバランスよく取られ配置されているので、キリスト教教理の根本を理解するのに最適な説教集である。

（さかもと・まこと＝下北沢ナザレン教会牧師）
（四六判・二二四頁・本体二二〇〇円＋税・教文館）

9月5日発売

本田哲郎対談集 福音の実り

——互いに大切にしよう——



貧困・差別・若者たちの不安——社会の現実を直面する中で、イエスの福音を掲げるといえることか。気鋭の5人が、すべての人が人として大切にされる福音の実りを求めて、熱く語る！

定価1500円＋税

著者——
本田哲郎
浜 矩子
宮台真司
山口里子
Mマタタ



人を生かす神の知恵

——折りとともに歩む人生の四季——
武田なほみ 著 1500円＋税

信教自由の事件史

——日本のキリスト教をめぐって——
鈴木範久 著 2200円＋税

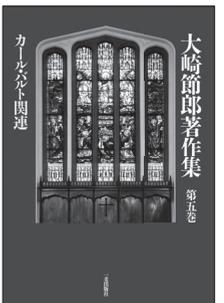
オリエンズ宗教研究所

156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel: 03-3322-7601 Fax: 03-3325-5322

http://www.oriens.or.jp/

問
い
か
け
を
前
に
大
崎
節
郎
著

大崎節郎著作集 第五巻 カール・バルト関連



稲山聖修

本書の構成は概ね三部から成る。Ⅰカール・バルトと19・20世紀の神学としては、「初期バルトの時代背景」「バルト初期説教解説」「説教と神学——カール・バルトの場合」「カール・バルトとデイトリヒ・ボンヘッファー」「バルトとボンヘッファー」「バルトから見たボンヘッファー」「ボンヘッファー解釈をめぐるいくつかの問題」「シュトゥットガルト宣言」「日本におけるカール・バルト研究」「カール・バルトと日本の神学」「桑田秀延とカール・バルト」「熊野義孝とカール・バルト」「福田正俊とカール・バルト」、Ⅱ改革派教会関係論文・講演・座談会としては、「改革派教会信仰告白緒論」「特別座談会『改革派教会信仰告白集』の出版をめぐる』」「改革派教会の教会論」「改革派教会における聖餐」、Ⅲ倫理学論文としては、「信仰と倫理」「キリスト教的生——信仰に生きる生活」「平和の福音」「転換期におけるキリスト教倫理——カール・バルトの出発点から」「科学・技術と人間の問題」「生と死の自由と責任——安楽死の問題」「ユーモアについて」である。各部は各々独立した論考としても読めるが、相互連関の中での熟読が望ましい。

Ⅰにおける考究は、著者のライフワークと言うべき内容。初期バルトの時代背景を概略として論じた上で、『カール・バルト説教選集』（日本基督教団出版局）刊行への道筋を備えられた学識を主軸に、初期バルトの説教の変容が宗教社会主義との関わりも含め、『ローマ書』執筆にいたるまで緻密に描き出される。その中で著者が説教集の刊行にあたりその学術的誠実さを常とされた記述がある。それはバルトの説教の一次資料に関するもので（七二頁）それはバルトが説教をいかに重んじていたかを生きいきと浮かびあがらせる。『教会教義学』と関連づけられての展開に至っては一切奇を衒わず、極限まで研ぎ澄まされている。

続いて開かれるのは、バルトとボンヘッファーをめぐる論考。この箇所ではバルトがボンヘッファーに与えた影響や、ボンヘッファーがバルトから授かった姿勢だけが注目されてはいない。著者はバルトとボンヘッファーを同一の線上だけでは考えず、バルトマンラを挟み、両者の神学各々のユニークさを際立たせている。時折著者はボンヘッファーを「バルト主義者」として

称するが、それはルター派としての一面を強調する教派主義的な研究者への牽制を意味する（一五五頁）。ここには著者の論を進める上での慎重さが窺える。この緻密さは収録された論考すべてに言える。

シュトゥットガルト宣言に関しては、一九四五年十月に成立した当該宣言のはらむ課題と可能性が、その採択までの葛藤とともに論じられる。第二次世界大戦後のドイツ諸教会が決して一枚岩ではなかったこと、にも拘らず被害を受けた他国の教会との対話に真摯であったことが偲ばれる。

カール・バルトとカール・バルト研究においては、日本のバルト神学研究・受容史が、桑田秀延・熊野義孝・福田正俊との関係で論じられる。この考究に関しては『日本におけるカール・バルト』（バルト神学受容史研究会編）と関連付けると、より多彩な示唆が得られるに相違ない。

Ⅱにおいては、直接には改革派に立たない教会こそ、信仰告

白やサクラメントを考えなければならぬ場合に、ぜひとも一読すべき論考と対談が収録されている。Ⅲの倫理学論文については、著者の経験をも滲ませつつ、伸びやかな表現とともに、同時代人に向けた、生のあり方へのメッセージが忌憚なく記される。

大崎節郎先生のお人柄を関係者に問い尋ねると、実に控えめな性格で著作集を自身から積極的に出版されるような方ではないと伺った。そのせいか収録された文章には極めて抑制が効いている。同時に著者のバルト研究には、一般にありがちな晦渋な言い回しが一切ない。だからこそ、その一言ひとは重い問いを発し、読者の怠惰さを戒めて余りある。追悼の思いを込めた「オットー・ヴェーバー先生のこと」（三八一頁）には師への溢れる思いが収録。素朴で麗しい文に涙を禁じ得ない。

（菊判・四八三頁・本体七〇〇円＋税・一麦出版社）
（いなやま・きよのぶ日本基督教団東北ニュータウン教会牧師）



大崎節郎著作集

第五巻 カールバルト関連 (全7巻)

大崎節郎
Setsuro Osaki



バルトがもたらした 神学への影響

初期バルトの神学、ボンヘッファーとのかかわりと影響、そして日本人神学者への影響を論じる。さらに改革派教会における信仰告白、教会論、聖餐、倫理学を扱った論文と講演を収録。

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価【本体 7,000 + 税】円
ISBN978-4-86325-086-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

健全な教会形成と福音宣教の進展と社会的証しのために
日本キリスト改革派教会憲法委員会第一分科会著

日本キリスト改革派教会宣言集

(附解題)



松田真二

日本キリスト改革派教会より、二〇一二年に『改革派教義字』が発行され、この度『日本キリスト改革派教会宣言集』が発行されたことに同じ改革派教会の伝統に立つ者として大きな喜びと敬意をもつ者の一人である。『日本キリスト改革派教会宣言集』を用いて学ぶことによって、日本の教会に大きな益が与えられることを信じて疑わない。

『日本キリスト改革派教会宣言集』は、「日本基督改革派教会宣言(創立宣言)」から「日本キリスト改革派教会創立七十周年記念宣言」までの七つの宣言と宣言解題、また付録として基本的・普遍的信条を収録している。『宣言』の目的は、「まえがき」にあるように、『ウェストミンスター信仰基準』を宗教改革諸信条の最高傑作として採るとともに、将来自分たちの言葉によるさらに優れた告白を作成するという祈願に基づくものであり、『宣言』を作成し、採択することを通してその実現をめざしているということである。日本キリスト改革派教会が『宣言』を積み重ねて、新しい信仰告白を作成しようと努力していることは実に羨ましいことであり、尊敬に値するものである。

『宣言』にブレがなく一貫性があるということは、日本キリスト改革派教会が『ウェストミンスター信仰基準』という一つの確かな信仰告白に立っているからである。また『宣言』が「付録」として古代教会の基本信条を収録しているのは、『ウェストミンスター信仰基準』の採択が決して排他的、独占的な選択ではなく、キリストの教会としての公同性を前提としているからである。

さて、「日本基督改革派教会宣言(創立宣言)」は、戦前の教会の罪と弱さを悔い改めつつ、有神論的人生観ないし世界観の確立という宣言と、一つの信仰告白と一つの教会政治と一つの善き生活においてキリストの教会を形成するという、日本基督改革派教会のめざすところを宣言している。「日本基督改革派教会創立二十周年記念宣言」は、伝道を行う信仰と神学を表明し、その主張の土台は礼拝と祈禱に集約されると宣言している。「日本基督改革派教会創立三十周年記念宣言」は、靖国法案反対の闘いのための「教会と国家にかんする信仰の宣言」である。日本キリスト教会も一九八三年に「現代日本の状況における教

会と国家に関する指針」を作成しているが、「教会と国家にかんする信仰の宣言」は、「われわれは、宗教団体を国家の宗教的機関と考えるいかなる思想をも拒否する。また、われわれは、国家を宗教団体の政治的機関と考えるいかなる思想をも拒否する」と具体的に宣言していることに教えられる。「日本基督改革派教会四十周年記念宣言」は、「条文」「説明」「日本基督改革派教会信仰の宣言」より成り、「信仰の宣言」を積み重ねていくことで新しい信仰告白を作成するという方法が確立された。「日本基督改革派教会創立五十周年記念宣言」は、「予定についての宣言」と「伝道の宣言」である。「日本キリスト改革派教会創立六十周年記念宣言」(一九九九年に「基督」を「キリスト」と名称変更)は、「終末の希望についての信仰の宣言」である。「日本キリスト改革派教会創立七十周年記念宣言」は、二〇一一年に起こった東日本大震災の意味を問うことの中で、「福音に生きる教会」と「善き生活」の二つの部分から成る一つの宣

言である。以上のような『宣言』を通して、改革教会の大切な教理であるが、また誤解を受けやすい「聖書論」「予定論」「終末論」「宣教論」「感謝の生活——律法の第三利益」などが、現代の教会や社会に新しく明確に示され、展開されている。ただ、「宣言解題」や「基本信条」の解説が短く簡単であることが残念である。

最後に日本キリスト改革派教会が、これらの積み重ねによって、また、さらなる神学的営みによって、一日も早く新しい信仰告白を作成されることを願ってやまない。

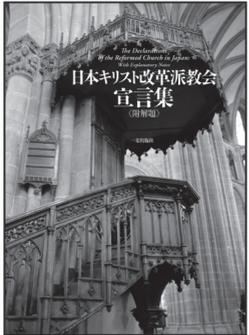
(まつだ・しんじ) 日本キリスト教会神学校校長・日本キリスト教会蒲田御園教会牧師

(A5判・一九三頁・本体一四〇〇円+税・一麦出版社)



日本キリスト改革派教会宣言集

《附解題》



教会形成と福音宣教の源

「教会と国家」「聖書」「聖霊」「福音の宣教」「予定」「伝道」「終末の希望」、そして「福音に生きる教会」「善き生活」についての信仰の宣言。

A5判・上製
定価 [本体 2,400 + 税] 円
ISBN 978-4-86325-092-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

安酸敏眞著

欧米留学の原風景

福沢諭吉から鶴見俊輔へ



村松 晋

本書は「わが国の知識人の欧米留学体験の意義」に着目して構想された、比類なき近代日本精神史研究の試みである。

登場するのは、福沢諭吉と西周、森有礼と新島襄、山川捨松・永井繁子・津田梅子、内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾、北里柴三郎と森鷗外、芳賀矢一と夏目漱石、有島武郎と寺田寅彦、原勝郎と西田直二郎、波多野精一と石原謙、村岡典嗣と阿部次郎、九鬼周造と三木清、有賀鐵太郎と郷司浩平、武田清子と鶴見俊輔の十三組・二十八名で、「約半数が何らかの仕方でキリスト教に関わっている」。「ドッペル・ポートレート」(Doppelportrait)——二人同時の人物描写——の方法」で描き出される「十三の物語(ルビは原文)」が「時代縦断的分野横断的」に響き合い、「通常は表面に現れない意外な関わりや接点」を浮き彫りにしてゆく様は、伊藤整の大著『日本文壇史』を思わせる。

内容豊富な本書は多様な〈読み〉へと開かれているが、評者がまず惹かれたのは、各人の「存在」に迫り得る示唆的なエピソードの数々である。たとえば波多野精一が留学先のハイデルベルク大学で「濃厚にキリスト教に傾斜した科目選択」

を行っていた事実は、後の「早稲田騒動」に際して示された、その「侍」的気骨とあわせ、「学究者波多野」の凛とした〈精神〉を浮かび上がらせる。また日本思想史学のパイオニア・村岡典嗣が、波多野の如き人格と「実生活においても特別な師弟・友人関係で結ばれていた」ことは、「アウグスト・ベークを『ドイツの本居「宣長」』と呼び、彼の墓を「ベルリンで」探して回った(「内は原文」)逸話共々、その学問の〈質〉を雄弁に語りかけてくる。

またはからずも、「京都大学文化圏」とも称すべき知的磁場が活写されている点も興味深い。評者はその存在感に触れ、たとえば一九五六年に示された有賀鐵太郎の「ハヤトロギア(ハヤトロギー)」を、同時代の「思想的ヌーベルバーク」(小島亮「ハンガリー事件と日本」)が象徴する息吹と関わらせて考えると共に、戦後の京都を場とする知的交流圏——「世界的立場と日本」以来の課題意識や、梅棹忠夫ら「新・京都学派」のまなざしが織り成す世界——に重ねて問うことの必要性を感じさせられた。

さらに、「キリスト教学と西洋思想史を専門」とする著者

が、その「個人的色彩」を表出し、ある〈緊張〉を呼び醒ます指摘や問いを随所に散りばめている点も本書の特色である。たとえば著者は、九鬼周造の留学先での女性遍歴に内在し、そこに「父母が陥った色恋の宿業」との和解の過程を見出すが、その代償をも凝視しつつ、「およそ哲学や神学に関する評価は、人間的次元の諸問題を捨象してなされるべきか」と問いかける。ここに評者はテイリッヒや暁烏敏の「逸脱」とそれゆえの祈りを想い、著者の自問を反芻させられた。

著者の視座はまた、『日本中世史』を著した西洋史家・原勝郎にことよせて、こう表明される。いわく「戦後の日本人学者——とりわけ欧米に関する研究に従事している学者」は「国籍不明の世界のごとき意識で、研究に携わっている人が大半(傍点は原文)」であると。評者は著者の憂慮に接し、本書にも登場するカール・レーヴィットを想起した。周知のようにレーヴィットは「日本近代」の知性を評し、「二階(ヨーロッパの思惟)」と「階下(自文化)」が無関係に並

ぶ「二階建ての家」になぞらえた(「ヨーロッパのニヒリズム」あとがき、(一)内は引用者)。異文化との接触に際し、自文化との葛藤や緊張を持たず、両者を無自覚に並列させて省みない知のあり方に、真の〈他者〉理解とそれに基づく自己変革は期待し得るのか。——レーヴィットの論点は、敗戦後、たとえば竹内好が論考「中国の近代と日本の近代」で別扱した世界にも通ずるが、「大地に足を据えない普遍主義とかグロバリズムの唱導は、空疎な空念仏の如きものであって、普遍人間的な理念や価値に資するものではない」と説く著者も、彼らと課題意識を共にするといつてよい。本書の二十八名はいずれも「自己に内向しつつ世界へと反転・外向し、世界を志向／思考しつつ自己に再帰」した人々である。彼らの苦闘は「日本近代」とその根底なる知を質し、現代に及ぶ問題性を撃つ。熟読を勧めたい。

(むらまつ・すすむ)聖学院大学人文学部日本文化学科教員

(四六判・五二〇頁・本体二七〇〇円＋税・知泉書館)



新刊

聖書学論集47

日本聖書学研究所編

●A5判並製 定価3000円＋税

ヨブ記42章6節をどう解するか

——ヨブ記におけるヘブライ語
語彙根¹をめぐって

山吉智久

●使徒行伝6章の

「ヘレニスタイ」はだれか

——その歴史の実体と地理的拡大

橋 耕太

●マルコ福音書の文脈における

イエスの最期の叫び

——「わが神、わが神、なぜ私を
お見捨てになったのですか」
の意味

本多峰子

●「キリストの死」と「神の愛」の

関係(ロマ5:5-6.8)

吉田 忍

やさしい キリスト教 入門書

末岡成夫/高力義博/藤江 健 著

●小B6判並製 定価800円＋税

キリスト教信仰の基本的な学び
のために、聖書ののみ言葉を土
台としてキリスト教をやさしく解
説していく入門書。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

第6回

2015年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員が“お薦めする本”の大賞が決定しました。

キリスト教本屋大賞 2016



全国の
キリスト教書店員が選んだ
いちばん読んで
ほしい本

【選出方法】

ノミネート15作品の中から決戦投票を行い、
(1位=5点、2位=4点、3位=3点)合計得点
を元に大賞を選出しました。

書店にて
フェア展開中!

喜びの声

監修者 大島 力さん
旧約聖書は物語の源
であり宝庫です。それは基本的に「文字」によ
って長く伝承されて来たものですが、物語は私
たちに豊かなイメージをいだかせます。それを短
い文章とイラストで表現した本書がキリスト教
本屋大賞に選ばれたことは、大きな喜びです。

オススメ

大阪キリスト教書店 上田 玲子さん
「聖書に出てくる人物」をテーマにした本・辞
典ならたくさんあるけれど、この本はひと味も
ふた味も……というか、全然違う! カラフルな
イラスト、とても見やすい関連図表……。旧
約聖書が本当に面白くなる一冊。



第1位

聖書人物 おもしろ図鑑

旧約編

大島 力◎監修

1,620円(日本キリスト教団出版局)



第2位

メディアにむしばまれる 子どもたち

小児科医からのメッセージ

田澤 雄作◎著 1,404円(教文館)

善隣館書店 大森 紀代美さん
タイトルにドキッとしました。何を隠そう、私自身メディアにとっぷりは
まり、そして20年前からメディアに子育てを助けてもらった母親のひ
とりでした。今さらながらページを開いてみました。メディアを中心に
様々な問題点が指摘され、とても興味深く読めます。



第3位

祈りの ともしび

2000年の信仰者の祈りに学ぶ

平野 克己◎編 1,296円(日本キリスト教団出版局)

ひぶろすの森 植田 雄二さん
古代から現代まで、様々な先人たちによる祈り。
未来へとつなぐ、まさしく祈りのともしびとなる一冊。



4位

キリスト教資料集

富田 正樹◎著
1,080円(日本キリスト教団出版局)

6位

あなたらしく生きる

山内 英子◎著
1,080円(日本キリスト教団出版局)

7位

信じない人のためのイエス入門

宗教を超えて ジョン・シェルビー・スポング◎著
富田 正樹◎訳 3,996円(新教出版社)

10位

浅子と旅する。

中尾 祐子◎著
1,296円(フォレストブックス)

12位

よくみてさがそう聖書絵本 クリスマス

日本聖書協会◎文
ギル・ガイル◎絵 1,296円(日本聖書協会)

14位

クリスチャンであるとは

N・T・ライトによるキリスト教入門 N・T・ライト◎著
上沼 昌雄◎訳 2,700円(あめんどう)

5位

精神障害と教会

教会が教会であるために
向谷地 生良◎著 1,620円(いのちのこぼし社)

7位

人を恐れず天を仰いで

復刊『一週一信』
広岡 浅子◎著 1,836円(新教出版社)

7位

幸せはあなたの心が決める

渡辺 和子◎著
1,080円(PHP研究所)

11位

祈りの道

八木重吉詩集
八木 重吉◎著 1,296円(キリスト新聞社)

13位

ふくいんしょえまき イエスさま

上條 滝子◎絵・文
1,404円(キリスト教視覚センター)

15位

賢者の生活リズム

忙しい人を支える ケン シゲマツ◎著
重松 早基子◎訳 1,944円(いのちのこぼし社)

「キリスト教出版
販売協会加盟書店」
(札幌市)北海道キリスト教書店
(盛岡市)善隣館書店
(仙台市)仙台キリスト教書店
(千葉市)恵泉書房
(狭山市)聖公書店
(中央区)教文館キリスト教書部
(新宿区)ABC(アパコ・ブックセンター)
(新宿区)キリスト教書店ハンナ

(港区)バイブルハウス南青山
(杉並区)待晨堂
(横浜市)横浜キリスト教書店
(新潟市)清光書店
(静岡市)静岡聖文舎
(名古屋市)名古屋聖文舎
(京都市)京都ヨルダン社
(大阪市)大阪キリスト教書店

(堺市)ひぶろすの森
(神戸市)神戸キリスト教書店
(広島市)広島聖文舎
(徳島市)徳島キリスト教書店
(松山市)松山キリスト教書店
(北九州市)北九州キリスト教ブックセンター
(福岡市)新生館
(熊本市)キリスト教書店ハレルヤ
(中頭郡西原町)沖縄キリスト教書店



QRコードで
簡単アクセス!



『いいね!』をクリックして
最新情報をGET!

https://www.facebook.com/christianbookoftheyear



主催:キリスト教出版販売協会(※表示価格は、8%税込価格です。)

本屋さんを選んだ お勧めの本

『原爆にも部落差別 にも負けなかった 人びと』



2,500円+税
かもがわ出版

広島聖文舎 難波郁江

二〇一六年五月二十七日の広島は異様な日であった。核のカバンを携えてオバマ大統領が広島訪問。平和記念公園を訪れ資料館をわずか十分程度の見学。テレビを見ていて呆気に取られてしまった。何を見たのだろうか？と。

オバマ大統領広島訪問は、その後もニュースになっていく。その一カ月もたたないうちに本書が出版された。六月中に品切れになるほどで、重版待ちとなった。

原爆の脅威、悲惨さについては必死で学び伝える努力をしたつもりだ。被差別部落の中での被爆の実相もしっかり聴いて知っているつもりでいたが、まだまだ差別についても向き合っていなかったことを痛感した。

被差別部落の地域で差別された上に被爆による差別、そ

大阪キリスト教書店 上田玲子

『聖書人物おもしろ 図鑑——旧約編』



1,500円+税
日本キリスト教団出版局

「第六回キリスト教本屋大賞」への第一次選考時に、お薦めコメントを書かせて頂き、同大賞のノミネート作品を掲載したリーフレットをお読み下さった方もいらっしゃるかも知れませんが、この度、投票数ぶつちぎりの第1位で大賞に選ばれたので、このコーナーでも改めてご紹介を。

聖書に登場する人物を取り上げた書籍は今までもたくさん出版され、多くの方に読まれています。旧約聖書がおもしろくなる本！(「まえがき」より)を目指して書かれた本書は、それらのどれとも違う魅力を持っています。もともと子ども向けに書かれているだけあって、本文はすべてルビつき。また、やさしい言葉で簡潔にまとめてあるため、読みやすさは抜群です。さらには、旧約聖書続編に登場する人物についても書かれており、旧約聖書の世界をより広く楽しめるようになっていきます。

まだまだお薦めしたいポイントがたくさんありますが、とても紹介しきれません……。そこで、あなたのお手もとに是非一冊、お伴させて下さい！

の地域に在日朝鮮・韓国人もいるわけで三重の差別を受けていると在日韓国人の牧師先生からよく話を聞いてきた。

この本は著者が「広島・小さな町の戦後史」としてその地域に住む人々から聴き取って書かれているものだ。広島キリスト教社会館にかかわる人たちのことが多く書かれている。自ら被爆しながらも八月六日に一八歳の女性の出産を助産師として赤ちゃんを取り上げた益田小塚さんの話は大変感動的だ。

広島女学院の教師として来日したメアリー・ジョーンズ宣教師は益田小塚さんをマハトマ・ガンジーやマザー・テレサと同様に尊敬し、小塚さんのためにキリスト教社会館の設立へとつながったほどだ。

広島は被爆者のために寄り添ってくれたアメリカ人もいたことを忘れてはいけない。このような事実を日本の政治家たちは知っているのだろうか？ ぜびともオバマ大統領の広島訪問をきっかけに広島の問題を、本書を通して知っていただきたい。

広島聖文舎

〒730-0841 広島市中区舟入町12-7
TEL: 082-2208-0022
FAX: 082-2208-0177
E-mail: hseibun0951@yahoo.co.jp

『アウグスブルク 信仰告白』

フィリップ・メランヒトン 著



1,000円+税
リトン

日本福音ルーテル教会では「宗教改革五〇〇年記念事業推奨図書」として四冊を挙げており、本書はその中の一冊です。アウグスブルク信仰告白は、宗教改革期にプロテスタントの諸教派が次々と信仰告白集を著すなか最初に書かれた文書で、ルーテル教会が最も大切にしている信仰告白の一つです。

ただひたすら神に、そして聖書にまっすぐであること、また教会の分裂ではなく一致を常に望み勧めていたルターそんな彼の協力者・メランヒトンによる「穏やかな書き方ながら、譲れない線は絶対に守るといふ「決意表明」(「解説」より)。宗教改革五〇〇年を目前にした今、じっくりと味わってみませんか？

大阪キリスト教書店

〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-1-15
TEL: 06-6345-2928
FAX: 06-6345-2187
E-mail: ochbook@river.ocn.ne.jp
URL: http://osakacbs.web.fc2.com/

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 教団センター・I771F	022-223-2736	共用		fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県佐倉市2-1-1 新中佐倉ビル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖光書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo@icom.home.ne.jp	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491	http://krisutokyoushotenhanna@ybb.ne.jp	krisutokyoushotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohatacbs/ieue.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	negoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://kijorden@inbox.kyoto-net.or.jp	kijorden@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbocenter@ybb.ne.jp	kcbocenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	中瀬西町字翁原777 沖縄キリスト教団内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2016年6月~7月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
小山晃佑 著 森泉弘次 訳	十字架につけられた精神 —アジアに根ざすグローバル宣教論	四六	218	3,100	教 文 館	6/20
森 島 豊	人権思想とキリスト教 —日本の教会の使命と課題	四六	164	1,500	〃	6/30
勝又悦子・勝又直也 著	生きるユダヤ教 —カタチにならないものの強さ	四六	352	2,500	〃	6/30
W. J. ファン・アッセルト 著 青木義紀 訳	改革派正統主義の神学 —スコラ的方法論と歴史的展開	A 5	348	3,900	〃	6/30
山口陽一・朝岡 勝 著	キリストが主だから —いま求められる告白と抵抗 【新教コイノニア32】	A 5	76	700	新 教 出 版 社	6/27
船 本 弘 毅	ガラテヤの信徒への手紙を読もう —自由と愛の手紙	四六	162	1,500	日本キリスト 教 団 出 版 局	6/10
大 島 力	聖書の中の祈り	四六	128	1,300	〃	6/15
日本聖書学研究所編	聖書学論集 47	A 5	112	3,000	リ ト ン	6/25
クリスティン・ジャック 編 永井みぎわ 訳	世界がぶつかる音がする —サーバントの物語	四六	304	1,300	ヨ ベ ル	6/10
吉 岡 恵 生	立ち上がれ! —神の恵みに生きるために	四六	264	1,800	キリスト新聞社	6/15
石 居 基 夫	キリスト教における死と葬儀 —現代の日本的霊性ととの出逢い	四六	246	1,800	〃	6/24
C. シュトローム 著 菊地純子 訳	カルヴァン —亡命者と生きた改革者	四六	176	2,200	教 文 館	7/30
ティモシー・ラドクリフ 著 伊達民和 + 芦屋聖マルコ教会翻訳の会 訳	なぜクリスチャンになるの —その意義は何か	四六	440	2,700	〃	7/30
森下辰衛 監 修	三浦綾子366のことば	四六	160	1,500	日本キリスト 教 団 出 版 局	7/13
山 崎 英 穂	アガペーの言葉	A 5	192	2,000	〃	7/25
ヒレル・スタイナー 著 浅野幸治 訳	権 利 論 —レフト・リバタリアニズム宣言	A 5	496	5,000	新 教 出 版 社	7/31
佐 藤 優	現代に生きる信仰告白 —改革派教会の伝統と神学	四六	168	1,700	キリスト新聞社	7/22

福音と世界

2016年10月号

特集 聖書と贖罪

寄稿者 小友聡、鈴木浩、ミラ・ゾンターク、山口希生、河野克也

寄稿 「いま、関西労伝60年からみえてくる道（大川祈）／新連載 現代神学の冒険（若名定道）

／好評連載 聖書とわたし（末盛千枝子）、聖書素読（金必順）、レヴィナスの時間論（内田樹）、

新約釈義（辻学）、詩篇の思想と信仰（月本昭男）、南島キリスト教史入門（二色哲）、ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

本年、キリスト教出版社であった「聖公会出版」が廃業した。ここ二十年くらいの間にルーテル系の「聖文舎」やバプテスト系の「ヨルダン社」等の出版社が相次いで廃業していったが、困惑は続くばかりだ。出版界全体が縮小傾向なのに加え、硬派の人文科学書はさらに売れなくなっている。通勤途中の電車の中で目にする新刊の広告は、簡単にできる健康法や処世術に関する本が多く、「たちまち〇十萬部突破！」と威勢がよい。キリスト教出版にもそのような本が出てくればと夢見るのだが、駅に着いた途端、現実を引き戻される。しかし、いつまでも落ち込んではいられない。私たちには、多くの教会と信徒の皆様がついているからだ。

そのことを改めて確認できたのは、願望望牧師が、本誌一五頁に書かれた次の一文によってである。「先日、毎月教会に来られるキリスト教書店の方が『先生、いい本が出ました』と紹介されたのが大島先生のこの本です」。

何と嬉しいことだろう。毎月教会を訪問し、キリスト教良書を薦める書店員がいる。そしてそれに応えてくださる牧師がおられる。私たちキリスト教文書伝道事業にかかわる者にとって、この一文は何よりの「喜ばしき音づれ」となった。勇気百倍、新たな望みが湧いてきた。
(寺田)

九月号二頁下段二行目「メノナイト派を火刑に処したオランダ改革派」を「セルヴェトウスを火刑に処したカルヴァン」に訂正します。

本のひろば 2016年11月号 予告

本・批評と紹介・木原活信他著『関西学院大学神学部ブックレット8 教会とディアコニア』、河合裕史著『続イエスの言葉100選』、船本弘毅著『ガラテヤの信徒への手紙を読もう』、森下辰衛監修『三浦綾子366のことば』、石居基夫著『キリスト教の死と葬儀』他



ルターから今を考える

宗教改革500年の記憶と想起

小田部進一

宗教改革500年を2017年に控えた今、宗教改革者ルターの行ったことをどのように想起するのか。その生涯と思想を追いながら、今につながる課題を見据える。

◆A5判 並製・264頁・2,700円



そうか! なるほど!! キリスト教

荒瀬牧彦/松本敏之 監修



「聖書の章や節って、誰がいつつけたの?」「中絶や出生前診断ってしていいの?」など、キリスト教に関する50の素朴な問い、難解な問いにその道の専門家が本気で、答える。

◆A5判 並製・136頁・1,620円

Mission Diary 2017

ミッションダイアリー

B6判手帳新発売!

教会生活からビジネスライフまで1冊で管理・記録できるよう、現場での使い勝手にこだわった新手帳。

◆B6判 2色刷り・1,620円 (しおり2本、ペンホルダー付)

- 見開きの年間/月間/週間予定表
- 日曜日始まり、ワイドな日曜日枠
- 教会暦、教会行事、聖書日課を収録
- 葬儀日程決めに役立つ「友引」マークを記載

お得なプレゼントキャンペーンを実施!

WEBアンケート回答者の中から抽選で50名様に、〈Mission Diary 2018〉をプレゼント! ぜひご購入の上、ご回答ください!



※カバーはビニールレザー・アイボリーのみとなります

イエスの降誕物語

クリスマス説教集

及川 信

● 四六判・280頁・本体2,100円

「民全体の大きな喜び」と告げられたイエスの誕生は、マリアやヨセフ、そして当時のユダヤ社会で本当に喜びとして迎えられたのか。クリスマスを祝う意味を真摯に問う説教集。



アダムとエバ物語 説教と黙想

神に祝福され生かされていたアダムとエバ。欲に従い神に背いた結果と神の呼びかけを改めて問う。

● 四六判 304頁・本体1,800円

ノアとバベル物語 説教と黙想

墮落した世界を掃した洪水と救われたノア、そしてバベルの塔の物語は、私たちに何を問いかけているのか。

● 四六判 306頁・本体1,800円

キリスト教弁証学

近藤勝彦

● A5判・672頁・本体5,800円

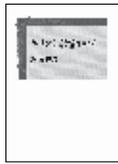
キリスト教信仰の真理性を鮮明に語るのと同時に、キリスト教の自己変革を追求する試み。諸宗教との軋轢が起る現代社会に生きる私たちに伝道の確かな基盤を提示する。



キリスト教倫理学

旧来の価値が崩壊する今日、キリスト教は倫理的指針となりえるか？ プロテスタントの伝承資産を継承・深化・活性化しつつ、現代の倫理的諸問題に取り組む。終末論的救済史の中に教会とその伝道を見据えた体系的意欲作！

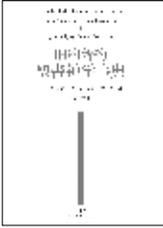
● A5判 528頁・本体4,600円



旧約新約 聖書神学事典

A・ベルレユング／C・フレイフェル編 山吉智久訳

旧新約聖書を貫く最も基本的な概念や主題を、カトリック、プロテスタント共同で解説した画期的な試み！ 聖書学と神学を架橋する〈聖書神学〉を学び、聖書を読むために不可欠な事典。 ● A5判・672頁・本体18,000円



聖書に興味があるすべての読者へ

9月の新刊 (価格表示は税抜)

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一六年十月一日発行 (毎月一回一日発行)
本のひろば 第七〇五号 二〇一六年十月号

発行所 〒262-0254 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三二六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇五一二六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三二六〇一五六七〇

定価七八円 (税抜七二円) (千62円)
一年分二三〇〇円 (送料共)



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館